のほかに店頭でもっと安く入手できないかと，東京浅草界隈の包装材料店や和紙専門店を当たってみたが，見つからなかった．菓子製造業にコネがあれば，入手は可能と思う．乾めん類の束にも，このテープの類似品が使われている．スリッターに接触できれば，切り残しのロールを入手できるだろう．これが最も安価な入手法である．少量なら，家庭で消費する菓子類の包み紙を再利用すればよい．この紙は思いのほか多様に使われているので，商標や文字を気にしなければ，個人の需要を充たす程度にはあるだろう．ただし，紙を重ねて切ろうとしても，シート間で滑ってしまって思うように切れないし，手間がかかり過ぎるので，この点を解決する必要があった．

テープの作り方はまず，シートを巻いて筒状にする．このとき繊維の方向に巻き取るよう注意する．テープとして使うときは長い方が便利だが，筒が太くなるとカットしにくいので，2－3mを太めに巻くと扱い易い．ゆるまぬように紙の端を軽く熔着するか，粘着テープでとめる．これをニンジンのように刻めばよい．写真用カッターを使うと楽だが，摩擦で断面がくっつき合ってしまうことがある．しかしこうなるとかさばらないので，しまっておくにはかえって都合がよい．テープの幅は目分量で調節する．こまかい標本のためにラミントンテープを割いて使っていた人には，このやり方の方が便利だろう．切る幅にもよるが，前記「ぴたっこ」一枚で，一人のマウンターの約一カ月分の作業量がまかなえるとのことである．この作り方は，歌舞伎の「土蜘蛛」で用いる，蜘蛛の糸の製作風景のTVにヒントを得た．

ついでに記すが，ハンダ鏝の電流調節には，コントローラ付きの電気スタンドで十分で，スライダックを使うまでもない．これにふつうのラジオ用ハンダ鏝をつなげばよい．鏝先部分は市販のままでも使えないことはないが，より使い安くするにはヤスリで削るなり，チップを引き抜いて加熱し，赤熱したところをハンマーでたたいて，望みの形に加工すればよい．

ここに記した会社の連絡先は次のとおりである．

小津和紙博物舗．103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-3 小津ビル内．電話 03-3663-8788.

双葉商会．155-0031 東京都世田谷区北沢3-8-10．電話 03-3466-7702.

ラミネート紙について教えていただいた，日本紙業株式会社特殊紙営業部の駒坂則雄氏，試作品のテストをしていただいた，東京大学総合研究博物館の滝沢糸子氏に御礼申し上げる．

追記: 製造元にたまたまあった小幅のロールを，とりあえず入手してある．これはジャピロンPC 5-1415で，ラミントンテープより一段薄くて頼り無いが，標本貼付には十分使える．希望者には実費分与するので，連絡されたい．個人用でもかまわない．

引用文献

金井弘夫 1974．おしば標本の新しい貼付法．植物研究雑誌 **40**: 89－93.

(184-0013 小金井市前原町5-8-7
Tel/Fax 0423-81-0053)

新 刊

□島袋敬一編：**琉球列島維管束植物集覧 改訂版** 855pp. 1997．九州大学出版会．￥18,000.

1990年に出版された第一版を改定したものである．島袋氏一人の著作であるが，編とあるようにこれまでの出版された多くの人の琉球関係の報告書を纏めたものである．しかし纏めるには編集者の選択が必要だから，島袋氏の著作と考えてもよいであろう．なかなかの力作である．しかしこの本の原稿が書かれた以後にも，学名の変更されたものがあるし，新しく発見されたものもある．また琉球のイノコズチ属について書かれた多和田真淳氏の論文の一部は引用されていないので，同氏の幾つかの種類，特にダイトウイノコズチ

のような変わったものがあるのに，これらがどう扱われるか不明である．地元の人の研究はたとえ一部に不備があっても気にかける必要があろう．永年の初島住彦氏の努力を基にして立派な琉球の植物目録が完成した．これを基礎に琉球の植物の研究がさらに深められることを期待する．九州大学出版会 〒812 福岡市東区箱崎 7-1-146. （山崎 敬）

□ Werker E. **Seed Anatomy** 424 pp. 1997. Gebrüder Borntraeger Verlagsbuchhandlung, Berlin. DM 198,00.

種子の形態学の教科書としては，古くは Netolitzky（1926）の“Anatomie der Angiospermae-Semen”がある．その後まとまったものとして，Corner（1976）の“Seeds of Dycotyledons”が出版されている．種子の形態を種皮の解剖学的特徴（珠皮のどの層の細胞が種皮の厚壁細胞層になるかでタイプ分けする）で区分して記載するやりかたは便利であった．Corner の教科書は植物分類学に大いに貢献してきたと言える．Takhtajan一派も種子の比較形態学的研究を精力的に行い，1980年代には教科書も出版している，ただしロシア語である．その後，種子に関しては形態学はもちろんのこと，生理学の面でも多くの知見が蓄積されてきている．Werkerによる本書は，近年得られた情報も取り入れ，種子に関し形態学が中心であるが組織の機能，種子の休眠，発芽など生理学的な面，種子の散布などのような生態学的な面もカバーする広範囲の教科書である．図，写真の引用も的をえたもので，本文の理解の助けとなる．ただしとりあげた項目が多すぎて，各論の記述が不充分な点もある．引用文献は19世紀のものから最新のものまで網羅しており 48 ページにわたっている．種子に関してはなんでもという感じの本で，種子に関心のあるすべての学問分野の研究者にとって有益な教科書である． （寺林 進）

□ **Roth I.: Leaf Structure: Montane Regions of Venezuela with an Excursion into Argentina** 249 pp. 1995. Gebrüder Borntraeger Verlagsbuchhandlung, Stuttgart. DM 188.00.

本書はアンデス山系のパラモと呼ばれる植生に生育する植物の葉の形態に見られる適応戦略を具体的な種をいくつかあげて解説している．パラモとはアンデス山系北部のコロンビア，ベネズエラ，ボリビア，エクアドル北部に広がるイネ科を主とした植生で，森林限界と常雪地帯の間に位置する．雨期，乾期がある地帯もあるが，植物にとっての環境は厳しく，そこに生育する植物は独自の適応戦略を取っている．乾燥に対しては，葉を小さくしたり，巻き込むようにして蒸散をおさえたり，水をためる組織を発達させたりしている．厚いクチクラで蒸散をおさえると同時につよい紫外線から植物体を守っているものもある．各種の葉の形態，解剖の記載は詳しく，多くの図や写真がその理解の助けとなっている．
（寺林 進）

□岩槻邦男：**文明が育てた植物たち** 194 pp. 1997. 東京大学出版会．￥2,400.

著者はさきに「シダ植物の自然史」を著し，自身の研究活動を跡付けながら，それを人為環境下での無融合生殖型植物の進化として総括した．本書はそれを拡張して，無融合生殖型植物の未来が地球環境，ひいては人間生活におぼす環境を予測し，人と自然の付き合いかたについて，なにかのヒントを与えようとするものである．具体的にこうせよと言えるようなことからではない．有性生殖が生物多様性の維持に果たす役割を認識させることによって，人為による環境変化に慎みをもつことを自覚させたいという意図がうかがわれる，スケールの大きい著作である．「植物たち」の見出しは，植物に興味をもつ人のための本と思われかねないが，そうではない．大学レベルの理解度を必要とする書だが，環境問題の輪読書として話題にするにふさわしい． （金井弘夫）

□堂本暁子，岩槻邦男（編）：**温暖化に追われる生き物たち 生物多様性からの視点** 410 pp. 1997. 築地書館．￥3,000

1997年の地球温暖化防止京都会議に合わせて，急遽編集された論叢である．その理由は，会議の論点が規制ガスの種類と CO_2 規制の数値水準設定の駆け引きにのみに偏り，最も深刻な生物多様性への影響については，何ら話